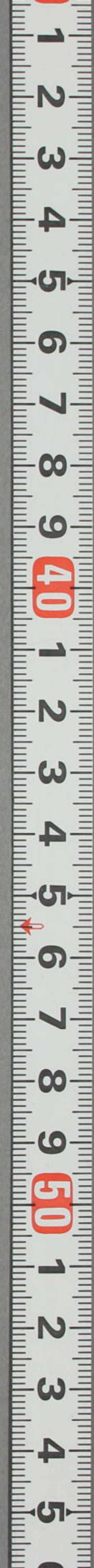




心學道話八篇上
廿二

9
3895
22



門 口 9
號 3895
卷 22



心學道の経八篇卷之上

藝陽 奥田壽太講詠

東武 平野攝翁傳書

漢昭烈將終勅後主曰勿以惡小而為之

勿以善小而不為

是皆扶也素肉の小學亦言此篇小

出ておのりまを穢ふ有るは徳をさげり

ま守る。今夕の夜吐一の類ふのてま守。

漢の昭烈皇帝と申の皆うぬ素肉の

三國の特蜀の國と願て居まると。

心學道話 卷上

八編 一

早稲田 大學 圖書館
昭和 27.6.16 受
藏 書

蜀の玄德と申人にて其方がたぐき
 なさきます待た跡りの太子稱と申
 此方不古遺言なすきます子の待の古とむ。
 後嗣とりの跡りの事と此古遺言の
 報の句以下以思小為と申の古とむ。
 氣のついで事ハ。どあやうお妙一斗の
 りでも 変てきはあとのあり。又句以下以善
 小不為とを毛いふありと心づくと事ハ
 たらへ新の事ハあても必捨かうがふまは
 やうお世のと申もさう。たらとことづら乃

諸におざり申すが結構お戒でおざり
 申す。都て凡夫小人と申者ハ大なる
 悪事ハいころん事と知て居り申すが
 小うい悪事ハ心付ぬ又ころんとらる
 付てもけ位の事ハ構ふるりのあれと
 思ひ善事ハ此くいの事ハ何おもぬぬ
 と知りてさうさぬ。善事ハも大なる
 善事にてたぐぬバやくふぬとあたぬ
 うら大きぬのを仕やうと知りあがすべと
 天地のるお初うら大なるのあ。初の皆

小さいりぬ其妙さのりのが 悟く 大きく成る
 物とのがあつりまへとらふの。あのねお物と
 居る末もいふ先うらあはやうお大きなはむの
 なる初には 疑わどの末がぢりしくと大さく
 成てあのやうおねもつるまる夫おきり
 毛の。お前様や松いもの終でも初うけやう
 お大きいのあのお子であつこのがぢりい
 物らうけ位おたつこのくおたりませ
 右野川その水とを尋まむむらりの
 水萩の下流

此後を流る 川の氷でも。其おんど本とを
 ろくまると山奥うらやうくとと流る松の
 の萩の糸のとりやうありのあきともあの
 通りおあや我と流る。松を川おあります。
 漢の韓信の筆とよんど萩お
 ながれく海とわるづき 若水も
 志がー木北葉の下らあ
 韓信と中と人ハ 弱く堪 悲強い男と
 をトめまご 誇りの時お市人かいつらもぢり
 先くやろふとありあき 居る西丁後韓信が

ます。初うりあのやうなかゝるのしやうある
 ちうじを尋さうと和らふお水とまじが
 一後くまかたをわや、お水となりの具をわやお水の
 降とまじと踏うめくくくとよへ又うら
 又あまうくせんくす湯とよふぐの石
 よりかきめつとあのお割ぬ指おあると。履お
 雪氷あると水洗あまおとりけ何とらあそ
 あれとらんが。人の心がとうどあの通り。生れ
 時の誰でもお愛らしおあまお石月おあるの
 どもとまじかつと事一のよあ。履つたりつたり

せんくとうちくあうくでそらうこ。こころ
 まりのたの可きらひあま。それがら月の
 名あやらけわさどとかがおのづら心ぐ重りく
 しと悪人お成とりの初のおあけ位の事お
 誰もする彼もすおとちりくくと積て
 大とくおと終あお七条河原で巻入お
 あらやうおあります。それ中人お眼忍お皇帝
 が忠のあまををいしてまをとおあまとおあつとあ
 かむりりお奉へうた世の例いそと
 心おゆらまをををさうき

かたむきつく〜田んぼもろもろの火遣言で
 ござりませうあの火事小なるに江戸中と
 焼拂ふよう火も本煙州のすいざら
 位の大くら新のトや或人たむこのんぐ
 居る吹ぐらおとす側くらそふすんぐら
 と具まうあく火事小なるとりよとを男
 おちつろく居る何あまの調子のすいざら
 火事トやあとりよ小焼くとくそが
 焼ると丈暑が焼る火事小成るといふも
 なるあまの煙の焼るのトやまるといふも

焼くと板敷が焼るくらそ水早く消せ
 火事小なるりやあまの板敷の焼るのトや
 火事トやあまのちつろく居ると修む板敷
 天井へ付くらそき早く消せ火事小
 ちつろくといふとやちつろく居るとあま
 ありや天井の焼るのトやまど火事トや
 火事小なる火事トやあまの火事
 トやと聞とそや知まるといふ火消が煙と
 持とり積とあついでり〜そ馬小あま
 能まると火事トやとりよ家根へ燃ぬ

わりくと半鐘や太鼓と撞う待まりありと
 初めと火車トヤとありて居初め初時時
 のすいづらの時消けび指ゆび一いつ本ほんと消けるあや熱あつ々あつ
 折をやぬ主人しゅじん折をレ長ちやう吉きちよよ息いきとといいとあり
 一いつやふとハイハイとと機嫌きげんよくよくすまふすまふふののを
 長吉ちやうきちといやと。又またききひひとありありをを返えん事じせぬ
 友とも親おやぢ父ちちががああとといいててコレコレもも吉きちくくといやと
 何なんドドややいいののととつつつつああののみみ返えん事じりりするするがが。ののみ
 日あつ本ほん播はでで之これ日ひささううささぬぬくく二に間かん本ほんの上うへへへ大
 の字じたりたりおおろろららききくく礫れきああたるたる靴あかららいい

主しゅこころろのの罪つみのの芽め生な下した度ど桐とう葉はれれままい
 ぐらぐられれ落おととををありありやや火か車しゃトトややたたををああり
 つつののくく居いるるややううあありりのの此こゝ位ゝのの半はん一いつつついい
 ととりりのの澄じやうみみららああららるるそそととををどど沖おみみ大
 歌うたのの半はんととちちりりすするる音ねふふ
 我われららととありありのの心こゝろどどああららううああるる
 かかたたいいにに鬼おにののままととううここりり
 或あるままいい瘡かさ医い者しやとといいふふががああらら何なんでも
 瘡かさトトくくといいふふ人ひとがが瘡かさ医い者しやとといいふふ
 名なとといいふふ頭づ痛うづががすするるままもも瘡かさ足あしがが痛いたむ

とも病も瘡もぐうむ。父も瘡何でも彼でも
 瘡と申しりりり。医者ト也。而が若いのこの
 嘔嘔うんーと。括くわくでさうさうさ。衣其瘡。医志
 どのを呼よふや。半はん連れんふ。強かう付けく。身みを何切と
 のうどぬぐくと。んんく。イヤこりや。瘡トやく。イヤく
 切らぬとのぐ。ああぐりも。瘡トや。ごごりません
 イヤ。中ちゆうむり。是これが瘡トや。是これハ大膽だいだんとのふ
 かんトや。とりや。若わか又また若わかの女にょと男なんと。相対あんど死し
 二人あぐり。死しそと。ああのく。若わかんで。居いうら。瘡
 医者いしやを。速すみふ。や。又また強かう付けく。身みを。見みて。ここも

瘡トや。イヤ。ああや。や。さ。ぬ。法ほう界がいああッ。イヤ。お。対たい
 死しト。死しそと。ああのこの。で。ああたり。も。イヤ
 かんト。や。ああや。かんかんと。ああさんさんト。や。全ぜん躰たい
 そ。よ。ふ。も。ああく。ままと。いいかかが。瘡くさの。醫い者しや。ままこ
 二階にがいうら。ああちちく。眼めを。見み積つここうう。呼よぶぶや。ああら
 と。強かう付けく。身みを。介かい抱ぶして。居いる。人ひとの。身みを
 括くわくららうう。イヤ。ありありや。ここじじが。ままトトや。ナナニニけけ瘡そう
 動どうの中ちゆうででハ。推おしががも。此こ被おががも。此このこのああららが
 ある。ののうう。ままでも。病人びやうにんのの身みを。んんととままれ。
 ぬぬぐぐと。括くわくららうう。ままののままででここままららとといいふ

どもぐしとをともく成りど氣をいふ
 延付氣が付う人すまや夢のおぬも病トや
 のイヤ瘧トやおぬりません二階うりあつと
 法をいふまうイヤ瘧のむり瘧ふまひ
 あれ沖のとりふんどや何とゆふてもんせ
 よふが瘧いイヤ瘧ますと瘧ふやと上す
 イヤくまかきトや。りあつともやうんせ
 ぶよふうまもどもま人びらうり瘧る
 りの初ませんイヤ瘧ぬ肉不ぬおとせむ
 ようつとそりすまとこんま半いあのとやたを

つるりがおぬりまうが成程良医ハ未病
 と治すとりあて医者いしやの名人なひんとりあつと
 病のおぬぬまきおぬるころがまの良医と
 りあつとけ瘧いイヤのゆふのまふ良医
 治し未病良將治し未亂とりあて名おとふ
 りあつとけ瘧いイヤと瘧心なるりて
 おぬりまう今の瘧医者いしやの名医なひんはぬ肉不氣
 と瘧まさんすまが病とりあつとあつとけ。ありや
 あつとけハあつとあまふ丈丈あまふ氣をい
 なるりありおぬらんうり一切の瘧ハあつと

子守、子供、成、あど、いと、り、と、け、大、事、の、こ、と
 要、以、事、と、あり、か、く、人、不、隠、す、こ、の、世、ぬ、や、う
 不、を、依、る、り、と、や、り、ら、い、事、の、ら、い、と、必、ま、ら、と
 を、り、ま、守、石、川、五、右、傍、の、釜、の、り、の、津、端
 瑤、不、五、右、傍、の、ま、紫、あ、も、柞、盛、人、の、初、の
 嘘、う、り、あ、ら、と、り、の、あ、く、自、習、す、る、あ、も、古、師、近
 さ、由、の、書、こ、ら、水、と、通、り、不、な、ら、か、て、居、ま、い、何、も
 を、ら、う、し、ぬ、る、り、も、こ、の、事、も、な、い、う、り、誰、が、ん、を、も
 平、氣、で、習、あ、て、居、ら、ま、る、を、ま、が、人、形、の、く、び
 書、と、り、馬、う、り、と、り、と、法、時、の、所、作、近、さ、ぬ、い、ん、と、い

居、ら、ぬ、う、た、ま、を、視、て、い、居、ら、ぬ、う、と、信、や、あ、を、
 見、ま、う、し、て、誰、も、居、ら、ぬ、と、う、し、く、と、い、ふ、事、
 の、方、へ、う、ち、や、り、く、ま、く、坊、主、書、と、り、馬、う、い
 たり、する。人、が、見、て、居、ら、ぬ、あ、も、習、す、ら、い、大、き
 不、損、し、や、と、あ、り、ふ、ら、う、筆、を、ま、ら、と、あ、ぬ、け、ら、り
 む、ご、ま、き、し、たり、し、て、居、る。サ、ア、そ、う、ま、法、と、據、あ、く
 嘘、法、の、あ、や、た、ら、ぬ、や、う、不、あ、る、そ、あ、人、所、師、近
 さ、ぬ、が、あ、ざ、り、と、膽、と、潰、し、て、今、ま、を、書、と、む、ご
 書、の、変、と、向、あ、へ、ち、あ、い、と、ま、の、く、知、ら、ぬ、教、を
 いろ、は、に、ほ、へ、と、と、正、真、不、習、の、古、師、近、か

そこのあてか—い。こふると怪と外わの腹はらが
ゆるんである。あまのふとまき—あかんあかんと音おとが
す。音おとはすつと相あひあふ番ばん人びとがお出でるあま
あ殺ころまとりふ事ことの。こやつも初はつて居ゐる也なり。自みづか
分のぶん耳みみへさへ年としえぬが音おとの口くちぬれはとこころえ
居ゐるうら。衣えの通とほり也なりすつとそはた—たふ
汗あせんとりふ喜よろこのすふ特とく。ちやつと耳みみとあまの
あまのが—いあは音おとがすつと外わの膝ひざのあま
さゆらこふさ人ひとまぬが音おとの年としえぬあはを外わの
さゆら皆みなあはふしや。あまの腹はらめあう—い

あはしや。是これでい初はつまをいは位くらいのりりのりりの太おほ事こと
たのしくと耳みみをかまへる居ゐる。人ひとのあまの
あまのまふソコデ今の様ようしや耳みみとあまのりあま
てそつと—是これしやあまのく—とかりふて居ゐると
番ばん人びとが今いまのあんとりふ音おとと年とし分ぶんまソリヤ様よう
かうせとと。てんびん持もちとさげておてんてんと様ようの
一生いっしょう命いのちふならる居ゐるとあまの年としえぬあま
ふ—とあるからと思おもひつあまのあまのりしる
の方かたへ番ばん人びとがあまのあまのりしるの様ようと擲うちころ
にあまのあまの太おほさのりしるの擲うち殺ころまうらとりしる

ども身みととまげて居ゐり人のままこのも。ゆゆと
 けいのもああうすおままかかいいこのかう 年ねんえぬやうふ
 して居ゐりたたくくききるる気きづづひひののああれれも
 ちちらぬぬくくと思おもひひ肉にく小こ天てん后ごう様ようや神かみををけけら
 りりああちゃんちゃんととおお存ぞんででおおののまま悪あくいいややつつとと天てんひひん
 持もちぐぐりり小こまま若わか若わかへへああままてて居ゐてもも一向いっかうああぬぬままの
 事こと一いっとと初はつききぬぬととりり小こ正せいのの変へんててああいいやや一いっとと
 すするるかからら志しままぬぬととりり小こ元げん夫ぶのの眼がん玉ぎよくくくすすと
 りり小こののがが歌うたつつままくく初はつききををああのの一いっややああららいいををま
 暗くらいいとともも天てん后ごう様ようががああやや川がわととんんててごごささま

ソコそこニに愛あいふふ昭しょう烈りつ皇こう帝ていがが悪あくのの小こささいいととりりややも
 すするるああつつ善ぜんいい小こささのの善ぜんトトややららととりりよよももののがが
 ううととせせううととああつつやや川がわてておお存ぞんりりまま守まもりりままううととままん
 是こゝををいいああささああ若わかもも怪あやましくくつつんでで大だい若わかととああり
 悪あくももけけ怪あやましくくととりりああままだだんんくくつつりりとと
 終つひりり大だい悪あくととななりりままままうう又また倫りんのの更まりりも
 不ふ通つうかかららととりりをを壽じゆふ
 情せいここのの朝あさ夕ゆふななりり言ことのの皆みなれ
 ううりりをを免めんごごととれれよよふふここををああままき
 だだののままああううららもも大だい事じののおおららりりのの聖せい人じん

何うもわらわしりつと

後初の言此業中不風とらる

つものけ身の益を又うまき

大さの事おつーみいふぬあさぬとらるお

情とらるるのさたりもすど今日家月の

中の言業をひでもるつー海ぬをあり

まをぬ。家用中あら此よのが神うら言天

が属お知小陰着であがりもす

先一ぶくあがりもす

心學乃之作八篇卷の上終

